

「美しいふるさと・檜崎」づくりプロジェクト2023 ～みんなの笑顔・元気・ちえがいっぱい～

下関市立檜崎小学校

1 目的

- 花や米・野菜の栽培活動に取り組むことにより、生命を育てることの難しさと喜びを感じたり、地域の方の知恵や支えの素晴らしさに尊敬や感謝の念を抱いたりすることができるようにする。
- 多くの人で環境整備に取り組むことにより、学校を愛する人たちの思いを感じ、愛校心を高める。
- みんなで協力して、長い時間をかけて一つのことを成し遂げる経験をする。
- 地域の方の助けを受けながら活動を進めることで、自分も地域の一員として地域を愛し、地域のためになることをしたいという心情を養う。

2 活動内容

- 樹木の剪定、草刈り
 - ・ 校内の樹木の剪定や草刈りを支援団体「ヒマラヤ会」と共に、PTA、教職員が協働して行い、子供の学ぶ環境を整える。
- 児童による地域貢献
 - ・ 全校児童で下関美化美化大作戦に参加し、地域の環境美化にささやかながら貢献する。
- 学校花壇の整備
 - ・ 地域の方々の様々な助けを受けながら、花壇の花の苗植えを行い、日々の成長や美しさを楽しむ。
- 米や野菜の栽培への関わり
 - ・ JAや地域の方の助けを受けながら、米や野菜の栽培・収穫に関わり、産業に生かされた地域のよさ、人々の思い、収穫を通して味わう喜びなどを体験を通して感じとり、地域への愛情を深める。

3 活動の実際

(1) 樹木の剪定・草刈り～ヒマラヤ会・PTAの活動～

6月と9月、ヒマラヤ会（地域の方の学校支援組織）とPTAが一緒になって学校の敷地内の樹木の剪定、草刈りをしていただいている。職員だけでは到底手の及ばない大がかりな作業を重機や専門的な機械を用いてしていただいている。おかげで、本校の樹木は伸びすぎることなく、1年を通して整った形を維持している。

1年に2回のこの活動は、暑い時期ではあるが学校を中心に幅広い世代の地域住民が集まる貴重な機会であり、親睦にも役立っている。ヒマラヤ会はPTAのOBも多く、学校への愛情にあふれている。この活動が続いていくことが、人々のつながりを維持しているとも言える。



運動場の草刈り



刈り取った草の運搬



正門前のマツの剪定



高所作業車を使って



形が美しく整う木々



PTA男性会員も多数

(2) 児童による地域貢献～下関美化美化大作戦への参加～

コロナ対応が落ち着きを見せた今年度は、下関美化美化大作戦を復活させた。これは、コロナ前は毎年行っていたもので、全校児童が縦割り班で正門から東西の通学路に分かれ、ごみを拾うというものである。

児童は、縦割り班のリーダーである上級生と共に歩道に落ちているごみや草むらの中の空き缶などを一生懸命集めていた。きれいになっていく様子を見て、充実感を味わっているようであった。



川沿いの公園にて



通学路沿いの草むら



集まったたくさんのゴミ

(3) 学校花壇の整備

昨年度から学校前の道路沿いの花壇づくりを全校児童が地域の方と一緒にやっている。今年度も冬花壇づくりを行った。

校務技士が、数種類の花苗をどこにどのように植えるか綿密に計画を立て、地域の方と一緒にマルチかけを事前準備として行った。当日は、地域の方と保護者の方が4人ほど来てくださり、子供たちと一緒に談笑しながら楽しく花苗を植えることができた。子供たちの頑張りもあり、作業は短時間で終わった。今後の成長を子供たちもしっかりと見守ってくれることを願っている。



保護者・地域の方と一緒に



見守っていただいて



楽しく話をしながら

(4) 米や野菜の栽培への関わり

① 野菜作り～1・2年生生活科～

J Aの方のご指導により、2年生はキュウリ、ミニトマト、ナス、スイカなどの夏野菜を育てた。また、1・2年生合同で、近所の方の畑をお借りしてサツマイモを植えた。サツマイモは、しっかりと根付くまで毎日畑まで水をやりに行くという労働が待っている。しかし、子供たちはJ Aの方の教えの通りに頑張ることができた。畑の持ち主の農家の方とJ Aの方で、それ以外の世話をすべてしてくださり、おかげでサツマイモを収穫することができた。ただ、今年は暑さが厳しく、収穫は昨年ほどはなかった。すると、農家の方が新たに子供たちのためにとサツマイモを持ってきてくださった。そのいもは、「いもごはん」として学校の給食に使わせていただいた。

実際、子供たちの作業はごく限られたものではあるが、植え付けから収穫まで関わり、収穫したものを味わうことができたこと、また、学校外の方に助けていただいた経験は、子供たちにとってかけがえのないものになっている。



教室前の花壇に夏野菜



お借りした畑にスイカを



サツマイモの苗植え



大変だったいも掘り



収穫に満足の子供たち



給食で出たいもごはん

② 米作り～3・4年総合的な学習の時間～

3・4年生は、毎年地域の方の田んぼをお借りし、J Aの方の指導を受けて田植

えと稲刈りを行い、収穫したもち米を格安で販売してきた。

今年度は、大きく二つの新しい取り組みを行った。一つは、田植え前の水を張った田んぼで豊田ホテルミュージアムの学芸員の方を講師に田んぼの生きもの教室を開催したこと。もう一つは、コロナ禍前まで行っていたもちつきを復活させたことである。

田んぼの生きもの教室では、学芸員の方に生きもの名前や採取の仕方を教わり、子供たちは実際に生きものを手に取り、命を育む田んぼの豊かさを感じることができた。

もちつきでは、地域の方が準備から片付けまですべてにおいてサポートしていただき、3・4年生だけでなく、コロナの影響でもちつきができなかった5・6年生も体験できた。また、もちつきのサポートに関しては、人が人を呼びたくさんの方が学校に集う結果となった。



田んぼの生きもの教室



田植え体験



稲刈り体験



準備をしてくださる方々



子供たちのもちつき体験



もちつきを通して生まれた人の輪

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 学校に保護者や地域の方が集ったり、子供と一緒に活動する機会があることで、学校と地域の一体感が生まれた。
- ・ 保護者・地域の方のそれぞれの強みやよさを子供のためにという共通の目標の達成のために発揮し合うことで、学校にとっては教育環境が充実し、参加する方にとってはやりがいがあった。
- ・ 様々な活動を通して、子供たちが地域のよさや地域の人々の力を感じ取り、地域の人々への感謝や地域への愛着を持つことができた。
- ・ 地域の方からの学習支援をいただいたことで、子供はこの地域ならではの学習ができ、知識・技能や思考を深めることができた。

(2) 課題

- ・ 活動を通して、地域の方と子供との双方向のやりとりまで発展させること。
- ・ 子供発の活動を促すこと。
- ・ 地域貢献の活動をもう少し広げていくこと。